

「あいちの教育ビジョン2020」の進捗状況と今後の取組

【基本的な取組の方向1】

個に応じたきめ細かな教育を充実させ、一人一人の個性や可能性を伸ばします

＜多様な学びを保障する学校・仕組みづくり＞

「県立高等学校教育推進実施計画（第1期）」に基づき、中学校時代に不登校であった生徒や中途退学を経験した生徒など、特別な事情を持つ生徒が自分のペースに合わせて学習できる昼間定時制高校や全日制単位制高校の設置を進めています。

◇城北つばさ高校（二部制単位制の定時制高校）の開校（平成29年4月）

（概要）

場所：名古屋市北区福德町広瀬島350-4（県立愛知工業高校校地）
募集定員：昼間部（普通科）120名、夜間部（ものづくり科）40名

（特色）

- 「普通科」と「ものづくり科」の共通の時間における科目選択を可能とすることで、3年間での卒業も可能となる。
- 学校長が適切と認めた事業所等におけるアルバイトも一定条件のもとで単位認定する。
- 中途退学者等への対応として秋季入学を実施する。

◇御津高校への昼間定時制の併設を検討

◇地域のバランスを考慮し、全日制単位制高校の新設（3校程度）を検討

＜特別支援教育の充実＞

「愛知県特別支援教育推進計画（愛知・つながりプラン）」に基づき、教室不足に対応するための特別支援学校の整備などを進めています。

◇特別支援学校の新設

- ・ 県立知多地区新設特別支援学校（知的障害）（平成30年4月開校予定）
- ・ 尾張北東地区新設特別支援学校（知的障害）（平成31年4月開校予定）
- ・ 西三河南部地区に新設（知的障害・肢体不自由）を検討
- ・ 刈谷市立特別支援学校の新設に対する支援（平成30年4月開校予定）

◇通級指導担当教員の増員

◇障害の特性に応じた特別支援学校の教育環境の充実（冷房、トイレ、防犯・防災機器）

＜理数教育の推進＞

本県の「ものづくり産業」を維持・発展させていくため、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematic（数学）の4分野（STEM）に重点を置いた教育を推進し、「ものづくり愛知の未来を担う理数工学系人材」を育成します。

◇研究指定校（あいちSTEMハイスクール）における理数教育の教育課程の研究と成果の普及

◇教材開発支援員の派遣を通じた教員の指導力向上

◇大学や企業と連携した「知の探究講座」の実施

◇理数系能力の向上を図る競技大会「あいち科学の甲子園」の開催

◇科学技術に関わる先進的教育活動の発表の場である「科学三昧 in あいち」の開催

＜日本語指導が必要な子どもたちへの支援の充実＞

外国人児童生徒の増加及び多国籍化に対応するため、小学校入学前から高等学校卒業までにわたって、外国人児童生徒への支援を推進しています。

◇公立小・中学校における日本語教育適応学級担当教員の配置

◇県立高等学校における外国人生徒教育支援員の配置

◇就学前の子どもを対象としたプレスクールの設置の促進

◇「日本語学習支援基金」を活用した日本語学習教室及び外国人学校への助成

◇地域の日本語教室の担い手となる日本語指導ボランティアの養成

【基本的な取組の方向2】

人としての在り方・生き方を考える教育を充実させ、道徳性・社会性を育みます

＜いじめ・不登校等への対応の充実＞

いじめや不登校等の未然防止、早期発見・早期対応を図るため、児童・生徒の心のサポート体制を充実しています。

- ◇スクールカウンセラーの小学校、中学校での配置の継続、高等学校での配置の拡大
- ◇スクールソーシャルワーカーの設置（市町村への支援、高等学校への配置）
- ◇いじめ防止対策法に基づく「愛知県いじめ問題対策委員会」等の設置
- ◇24時間体制の電話相談の運営
- ◇インターネット上のトラブルを未然に防止するためのネットパトロールの実施

【基本的な取組の方向3】

健やかな体と心を育む教育を充実させ、たくましく生きる力を育みます

＜学校体育の充実＞

国が実施している「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」によると、本県の子どもの体力は全国平均を下回っており、積極的にスポーツをする子どもと、そうでない子どもの二極化が認められるので、子どもたちが日常生活においても、運動やスポーツに親しんでいくことができるよう、体育に関する活動を充実しています。

- ◇体力向上を目的に作成した「子どもの体力向上運動プログラム」の普及
- ◇オリンピック選手などとともに親子で運動に親しむ「子どもスポーツふれあい事業」の開催

＜参考＞ 東京都、神奈川県、大阪府との比較（平成28年度）

※ 全国的に体力合計点は、大都市ほど低く、へき地ほど高い傾向が見られており、本県は大都市・中核市の割合が高く、町村・へき地の割合が低いことが、全国と比較して低い傾向の要因の一つと考えられる。

（※数値は体力合計点の平均値）

都道府県	小学校5年生男子	小学校5年生女子	中学校2年生男子	中学校2年生女子
愛知県	52.16	53.91	40.59	48.73
東京都	54.19	55.80	40.67	48.32
神奈川県	52.92	53.69	40.14	46.89
大阪府	52.49	53.58	40.63	48.18
全国平均	53.93	55.54	42.00	49.41

【基本的な取組の方向4】

未来への学びを充実させ、あいちを担う人材を育成します

＜社会人・職業人としての自立に向けたキャリア教育の推進＞

国家戦略特区の制度を活用して、愛知総合工科高校専攻科を公設民営化し、ものづくり愛知をけん引する人材育成を図ります。

◇愛知総合工科高校専攻科の公設民営化（平成29年4月）

（目的）生産現場等で養われた実践的な知識や経験を有する民間人材から生徒が直接指導を受けられる教育環境を整備し、技術革新が頻繁な生産現場の動向・ニーズに具体的かつ迅速に対応した教育を実施

（指定管理法人）学校法人名城大学（指定期間：5年間）

（特色）・柔軟かつ多様な雇用形態や、企業等に所属しながら教育活動を支援できる出向制度

- ・企業との連携によるデュアルシステム
- ・高度な技術、技能を持った人材による特別講義や直接指導
- ・工業系の競技大会に参加する学生や研究室との共同研究 等

<環境教育・ESDの推進>

全国一の加盟校を有する本県ユネスコスクールの活動を継続的に支援し、活性化を図ります。

※ 平成28年10月現在で、世界181カ国、約10,000校。日本では929校が加盟し、ESDの推進拠点と位置づけられている。本県の加盟校数は160校。

- ◇ユネスコスクールの連携強化に向けた**交流会の開催**(活動発表、ディスカッション)
- ◇先進的な活動をしている**大学やNPO等からの講師の派遣**

<「オリンピック・パラリンピック教育」の推進>

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに、本県ゆかりの選手を多数輩出するための競技力の強化と次世代のスポーツ人材の育成を図るとともに、将来グローバル社会で活躍しようとする生徒にとっての絶好の経験の場としていくための国際理解教育を推進します。

- ◇強化指定選手の審査・選考、強化・育成計画に基づいた**強化学業の実施**
- ◇2020年以降の国際大会で活躍が期待できる**選手の育成**
- ◇開催時に大学生となる年代の生徒を対象とした**国際ボランティアの養成**

<伝統文化・文化財の継承と新たな文化の創造>

昨年、ユネスコ無形文化遺産に登録された「山・鉾・屋台行事」33件のうち、本県は全国最多の5件が所在しており、あいちの山車まつりの保存・継承を図るとともに、その魅力が県内外に伝わるよう、広く発信します。また、本県を代表する朝日遺跡の魅力を発信するため、資料館を拡充整備します。

- ◇「あいち山車まつり日本一協議会」の取組を支援(公開イベントや研修会の開催等)
- ◇清洲貝殻山貝塚資料館の拡充整備、文化遺産としての魅力の発信

【基本的な取組の方向5】

学びがいのある魅力的な教育環境づくりを進めます

<教員の養成・採用・研修の改善>

教員が教職生活の全体を通じて資質・能力を向上させていくために、大学と県教育委員会を構成員とする「指標策定協議会」を設置し、体系的な教員研修計画を策定します。

- ◇教員の資質向上に関する「**指標**」の策定(平成29年度中)
- ◇上記「**指標**」を踏まえた体系的な「**教員研修計画**」の策定(平成29年度中)

<開かれた学校づくりと多忙化解消への支援>

教員の多忙な状況を改善し、子どもとしっかりと向き合う時間を確保することは、本県の教育水準の維持・向上に関わる重要な課題として捉える必要があることから、教員の多忙化解消に向けた取組を進めます。

- ◇「**教員の多忙化解消プラン(仮称)**」の策定(平成28年度中)
- ◇取組実践検証校による取組の効果の検証及び効果的な取組の普及
- ◇「**部活動指導ガイドライン(仮称)**」の策定の検討

<学校施設・設備の充実>

学校の施設の老朽化が深刻になっているため、適切な教育環境を確保するための老朽化対策や非構造部材の耐震対策を推進します。

- ◇「**県立学校施設長寿命化計画**」の策定(平成30年度までを目途)
- ◇早期に改修が必要な県立学校施設の工事施工及び先行設計の実施
- ◇武道場等吊り天井の耐震対策の実施